

「ぼくに今できること」

愛知県 春日井市立篠原小学校 4年 なかにし中西 ふみかず史和

昨年、土砂災害について調べたが、あらためて土砂災害のこわさを知り、今ぼくが土砂災害から身を守るためにはどうしたらよいか、考え直すことにした。なぜなら、昨年ハザードマップを見ながら家族で話し合った時、実さい安全な場所でもきけんな所があり、自分なりに災害マップを作ろうと思ったからだ。また、今年の夏休みに自由研究でダムについて調べ、砂防ダムの仕組みやはたらきなども学習した。その時土砂災害と砂防ダムが深く関わっていることが分かった。昨年より土砂災害の知しきを深めることにより、土砂災害の防止に今ぼくにできることを考えていこうと思う。

まずはじめに、春日井市のハザードマップでは、ぼくの住んでいる町は土砂災害けいかい区いきではない。しかし実さいその場所を歩いてみると近くに川があり、一度に大雨がふると水はげが悪くつかってしまう所や、土砂くずれが起きそうな所があるということが分かった。そのような場所を地図に書き入れて災害が起きそうな場所やしん水はんいを知ることで、自分の命を守ることができるとあらためて分かった。自分なりの防災マップを完成させたことで、安全と思われるひなん場所も実さい調べてみるとしん水区いきや土砂災害が起こりやすい場所もあるので、住民一人一人がかくにんし地いきでも話し合っていかなければならないと思った。ぼくももう一度家族でかくにんし、話し合っていこうと思う。

次に、今年の夏休みを利用して、愛知県や岐阜県のダムを家族で見に行った。また自由研究でダムについて勉強した。ダムの中には、砂防ダムもあり土砂災害から人の命やくらしを守るために、つくられていることも知った。

近年、地球温だん化のため、い前より雨が一度にふるりょうがふえ、雨のふる時期も長くつづくことがあるとニュースで知った。最近では、大きな台風も日本に来る回数がふえ、土砂災害について、一人一人が関心を深めていくことが大切だと思う。一度に大雨がふると、流れの急な川では川の水のりょうがふえ、川底や川岸の土砂が大りょうにけずられ、その土砂が下流に運ばれていくことで、土砂災害を引き起こしてしまうといわれている。それを防ぐために、砂防えんていや砂防ダムが砂防法によりつくられるそう。ぼくはそのことを学び、土砂災害が起こりそうな所に砂防ダムや砂防えんていをつくりつづければ安心だと思った。しかしその考えは、少し間ちがっていることに気づいた。ダムやえんていを作ることで3つの問題点があることを知った。1つ目は自然やかんきょうはかいが進んでしまうこと。ダムなどをつくることで魚や海そう類がすむ場所がなくなってしまう。2つ目にダムなどをつくるにはぼう大なひ用がかかり、いじひや管理ひがかかる。3つ目に、砂防ダムに人がたよりすぎて土砂災害のこわさや知しきがうすくなってしまう。この3つの問題点を知る事で、砂防ダムがあってもなくてもぼく達一人一人が、土砂災害について理かいし、防災対さくを積極的に行っていく必要があると思った。

最後に、土砂災害から身を守るために、今のぼくにできることは土砂災害のこわさを知り、ハザードマップを見つめ直すことが必要だと思った。また、「ダムがあるから大じょう夫」、「この土

令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

地は安全」と思いこむのではなく、これからは一人一人が土砂災害について理かいし、周りの人に理かいを深めてもらえるようにぼくも伝えていきたいと思った。